

# ユニセフ 「ウクライナ緊急募金」 1カ月目報告書

2022年4月11日

unicef   
for every child



ユニセフ(国連児童基金)は、皆さまのあたたかいご支援に支えられ、ウクライナの戦闘激化によって影響を受けている子どもたちと家族に、命を守る緊急支援を届けることができます。

ユニセフの緊急支援は、安全な水の提供、衛生施設の設置、産科病院への医療機器の提供、生活必需品の配布、戦時下でトラウマを負っている子どもたちへの心のケア、教育の機会を奪われている子どもたちへの学習継続支援、周辺国に逃れている難民の子どもたちの保護、家族への支援など、幅広い分野にわたります。

## 概況（2022年4月11日時点）

2022年2月24日、  
ウクライナの+紛争が本格的な戦争に発展しました。

3月29日までに250万人の子どもを含む650万人が  
国内避難民となり、112人の子どもが死亡、149人が負傷しました。

また400万人以上の難民がウクライナから脱出（230万人以上がポーランドに、60万9,000人近くがルーマニアに、38万7,000人以上がモルドバに、36万5,000人近くがハンガリーに、64万2,000人以上がその他の国々に流入）しました。

難民の90%は女性と子どもです。

ユニセフは、ウクライナ国内および、ポーランド、ルーマニア、モルドバなど周辺国の政府や自治体、市民社会と協力して、保健、栄養、教育、乳幼児期の子どもの発達、社会的保護、水と衛生(WASH)などの分野で子どもたちと家族のニーズに応えるための緊急支援を行なっています。

皆さまのあたたかいご支援により、ユニセフはウクライナの子どもたちと家族が必要とする様々な支援をウクライナ国内および周辺国で実施することができています。

本レポートでは、ウクライナ国内および周辺国において、ユニセフが最初の1カ月間に実施した支援内容を報告いたします。

## 支援物資

ユニセフは、ウクライナにおける危機発生からの最初の1カ月で、2万2000トン以上、8700万ドル相当以上の緊急支援物資を調達しました。

医薬品や医療機器、子ども用の冬服、施設用や家族用の衛生キット、教育キット、乳幼児期の子どもの発達用キット、レクリエーションキットなどが、ウクライナ国内およびルーマニア、モルドバ、ポーランドに避難した200万人の子どもを含む800万人以上を支えています。

ウクライナでは、リヴィウとヴィンニツァにある既存の供給拠点を補完するために、ドニプロ、キーウ(キエフ)、オデーサの3つの供給拠点を追加で設置し、より効率的に物資を準備することができるようにしました。これまでのところ、800万ドル以上の緊急物資が国内に到着しています。同国の商工会議所とのパートナーシップにより、地方自治体は、病院や国内避難民センターといった拠点や供給ルートを通じて、事前に備蓄していた支援物資の配布に携わっています。

安全上の制約によって、アクセスが制限されているにもかかわらず、ユニセフは、ウクライナ政府、主要な「フロマダ」(35の自治体)、人道支援団体(35のNGOおよび市民社会組織)とのすでに信頼が構築されているパートナーシップを通して、最も支援が困難で被害の大きかったリヴィウ、ヴィシュゴロド、ハルキウ、ミコライウ、キーウ(キエフ)市および州、チェルニヒウ、ドニプロおよびジトミルの49の病院を通して、59万6,000人への救命物資を提供することができました。ルハンスクでは、滅菌器、体重計、パルスオキシメーター、心電計、肺活量計などの医療機器が、1万人の子どもを支援する20の医療施設に届けられ、移動が困難な人や障がいのある人向けの院内リハビリテーション用機器を、9つの病院に届けました。

ドネツク、ルハンスク、ハルキウ、ドニプロ、キーウ(キエフ)、リヴィウでは、コミュニティセンターや臨時避難所で暮らすあ6万8000人以上に飲料水と衛生用品を届けました。

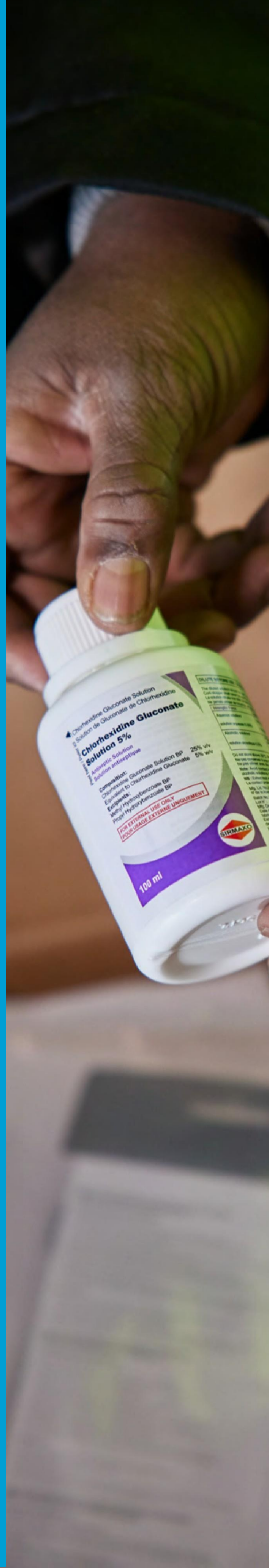
幼稚園には湯沸かし器36台が設置され、ノボアゾフスクとヤシヌバタの5つの社会施設では、施設の衛生キットの配布と水と衛生サービスの復旧によって、1万人が恩恵を受けました。

ユニセフは、紛争地域の水道会社をサポートする取り組みの一環として、ハルキウ・ヴォドカナル水道システムの運転に必要な量の浄水用液化塩素として、毎週14.25トンの調達を支援しています。これにより、約90万人が安全な水を利用できるようになり、同システムが毎週必要とする塩素を賄うことができます。今後、ニーズに応じてさらなる調達が行われる予定です。

モルドバにおいて、ユニセフは、パランカ、カラセウカ、キシナウに設置された15の難民宿泊施設に、赤ちゃん用キット、毛布、衛生用品、生理用品など避難所で必要な日用品を提供し、1万4,000人以上の子どもを含む2万人以上がその恩恵を受けました。

今後もニーズが高まる中、ユニセフはウクライナや周辺諸国において、医療、栄養、教育、衛生、子どものためのレクリエーションキットの調達と輸送を続ける準備ができています。

ユニセフのこうした緊急支援活動は、皆さまのご寄付によって支えられております。あたたかいご支援をお願いいたします。



## 供給拠点および支援現場に届けたユニセフ支援物資

支援分野	数量	重量 (トン)	価値 (米ドル)
 <b>子どもの保護</b> 紛争下において子どもの発達や学習を支え、心のケア支援を提供するためのキット（乳幼児期の子ども用、思春期の若者用）、マスク、レクリエーションキットなど	3,200	232	\$889,695
 <b>教育</b> 紛争下において子どもの発達や学習を支え、心のケア支援を提供するためのキット（乳幼児期の子ども用、思春期の若者用）、マスク、レクリエーションキット、学用品など	68,566	143	\$397,774
 <b>保健と栄養</b> 医療用・手術用機器、救急救命キット 医療用物資、非常食など	3,730,405	1202	\$6,392,687
 <b>水と衛生</b> 尊厳キット（避難所で尊厳を保つための生理用品などの日用品）、衛生用品、浄水錠など	49,521	676	\$526,280
 <b>活動に必要な物資</b> 人道支援活動時に身につける衣類、防弾ジャケット、腕章、バナーなど	498,162	6	\$109,850
<b>合計</b>	<b>4,349,876</b>	<b>2,259</b>	<b>\$8,316,287</b>



## 発注済みの支援物資（輸送費込）

支援分野	数量	重量 (トン)	価値 (米ドル)
 <p><b>子どもの保護</b> 紛争下において子どもの発達や学習を支え、心のケア支援を提供するためのキット（乳幼児期の子ども用、思春期の若者用）、マスク、レクリエーションキットなど</p>	221,716	17,153	\$1,723,224
 <p><b>教育</b> 紛争下において子どもの発達や学習を支え、心のケア支援を提供するためのキット（乳幼児期の子ども用、思春期の若者用）、「スクール・イン・ア・バッグ」、「スクール・イン・ア・ボックス」、マスク、学用品など</p>	84,050	863	\$1,220,900
 <p><b>保健と栄養</b> 医療用・手術用機器、救急救命キット 医療用物資、非常食、高エネルギービスケットなど</p>	402,322	10,024	\$43,909,585
 <p><b>水と衛生</b> 尊厳キット（避難所で尊厳を保つための生理用品などの日用品）、衛生用品、浄水錠、貯水タンクなど</p>	2,2925,217	9,809	\$34,807,986
 <p><b>活動に必要な物資</b> ウクライナ難民支援拠点「ブルードット」の設置機材、発電機、人道支援活動時に身に着ける衣類、防弾ジャケット、腕章、バナーなど</p>	39,047	986	\$5,996,904
<b>合計</b>	<b>3,042,352</b>	<b>37,331</b>	<b>\$87,658,599</b>

ユリアさん一家は砲撃が始まると、安全を求めて自宅の地下室や地下鉄の駅に、毎晩、身を寄せていました。

やがて空爆が始まったため、身分証明書などの必要書類とわずかな離乳食を手に取り、危険と隣り合わせの状況で避難してきました。

現在、リヴィウのケアセンターに一時的に避難しています。このセンターでは、戦争の惨禍から逃れてきた人たちが滞在したり、食料を受け取ったり、幼稚園を利用できる場所です。センターに到着したユリアさん一家に、ユニセフは衣服を支援しました。



# 教育

ウクライナと周辺国におけるユニセフの教育支援は、子どもたちの学習機会の継続を、各国政府の教育システムを通じてできるようにすることに重点を置いています。

ユニセフは、ウクライナ難民の子どもたちが、避難先の各国の教育システムの中で教育を受けられるよう、極めて重要な役割を担っています。難民の子どもたちの学校への編入のサポートや、入学準備や語学の授業の実施、また、Akelius FoundationやTobii Dynavoxと連携して、ノートパソコンや文房具などの学用品の提供や、障がいのある子どもの学習を支援する専用の機器の提供も行なっています。

またユニセフは、難民受入国やパートナーとの協力のもと、教師経験のあるウクライナ難民が、難民教育支援に携われるように支援しています。そして、ウクライナ難民の子どもや家族の支援拠点である「ブルドット」において、教育を受ける権利やデジタル学習プラットフォームに関する情報の提供、レクリエーション教材の提供などの支援も行なっています。

ウクライナでは3月21日以降、24地域中13地域で初等・中等教育が再開され、300万人の子どもたちが、遠隔授業や対面授業を通して、学習を再開することができています。これには、オンライン授業、または、避難先地域の学校での授業に参加している、国内避難民の子どもたちも含まれます。

継続的な学習を支える主な手段として、1年生から11年生までがオンラインで学習できる「All-Ukrainian Online School」と、ウクライナのカリキュラムに合わせて作られた教育放送である「Learning without Borders」です。

「All-Ukrainian Online School」は、もともと新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応の一環でユニセフの支援によって開始されたプラットフォームですが、アクセスする生徒数が急速に増加しており、ウクライナ全土の数十万人の子どもたちや、ポーランド、ドイツ、チェコ、米国などウクライナ国外で暮らす難民の子どもたちが、継続して教育を受けられるツールとなっています。

ユニセフがマイクロソフト社と共同で開発した「ラーニング・パスポート」は、学習と心理社会的支援(心のケア支援)のための補助的なコンテンツを提供しています。ウクライナのラーニング・パスポートには、映像、学習コース、教育的アニメ、音声ファイルなど60以上のコンテンツがあり、ウクライナ語や外国語、心理社会的支援、STEM、気候変動、子育て、インクルーシブ教育などに様々なトピックが用意されています。

乳幼児期の発達を支援するためのオンライン幼稚園のコンテンツは、3月21日現在、視聴回数が300万回近くに上っています。Bebboアプリは、子どもの健康と栄養のニーズに対する両親や保護者をサポートするために開発されました。このアプリでは、トラウマを負うような体験からどのように子どもの心を守り、適切なケアができるかについて、ウクライナ語で情報やガイダンスを提供しています。また、子どもたちの学習を支え、子どもの安全と保護を確保するための情報も提供しています。

移動教育チームは、ウクライナ西部において、教育支援や心理社会的ケア、メンタルヘルスサポートなどを子どもたちに届ける活動を行っています。50人の教師が、100カ所でこういった支援を届けるための訓練を受けました。

北東部のハルキウでは、地元NGOと協力して、地下鉄の駅に「子どもにやさしい空間」を設置し、子どもたちの学習を支え、心のケア支援やメンタルヘルスサポートを提供しています。これまでに450人の子どもたちが恩恵を受けました。

難民を受け入れている周辺国では、これまでに教育機関に登録された子どもたちは20万人以上に上り、現在も続々と登録されています。ポーランドでは、難民への教育支援分野でワルシャワ市と合意に達し、就学前の幼児と、小中学生を対象にした学用品の提供、難民の子どもたちの多様なニーズに対応するための教員の研修を実施します。また受け入れ先のホストコミュニティの子どもたちの学習の質を下げない配慮も求められます。同様の取り組みを、クラクフ市とも計画しています。これにより、10万人以上の難民の子どもと青少年が恩恵を受けます。

中長期的には、安全が確保され次第、ユニセフは被害を受けた学校の修復と、ノートパソコンやプリンター、その他の備品の交換・提供を予定しています。たとえば、25万米ドルのご支援で、戦闘で被害を受けた学校/教育施設5校分の修復・修繕と、追加の学習スペースの設立(給水所やトイレ、手洗い設備の設置含む)ができ、1校あたり平均200人の生徒が恩恵を受けることができます。





## 4 Scaling up cash transfers

### 人道支援のための現金給付

ウクライナでは3月25日現在、国内避難民650万人と国境を越えた避難民400万人の合わせて1,050万人以上が避難しています。これは、驚異的な数の世帯が雇用と自活の手段を失ったことを意味しています。ウクライナの人々は財産や重要な資産を失い、家さえも失っています。その結果、現在のみではなく将来にわたる大きな経済的困難に直面しています。

人道セクターにおいて、現金給付の重要性については世界的にコンセンサスが得られています。

現金給付は、物資を配るよりも費用効率が高く、効果的であることが実証されています。というのも、家族ごとにニーズが異なるからです。ある人は医薬品を必要とし、ある人は食料を必要とします。また、子どもたちの衣類や交通手段、仮設住宅やシェルターが必要な人もいます。現金があれば、家族は自分たちにとって正しい決断をすることができます。

ウクライナにおいてユニセフは、子どものいる脆弱な世帯26万5千世帯(約100万人)を支援するため、多目的現金給付システムを取り入れています。今後2か月以内に、少なくともそのうちの5万世帯が支援を受ける予定です。

3月30日、ユニセフ・ウクライナ事務所は、戦争の影響を受けているウクライナの家庭への追加支援として、人道的現金給付プログラムを開始しました。第1期では、5万人以上が、政府と作業部会の標準的な合意に基づき、一人当たり毎月74ドルの人道的現金支援を3か月間受ける予定です。給付は受給者の銀行口座への直接支払、または、銀行口座を持たない人には郵便局またはユニセフのプリペイドカードを通じて支払われます。

ユニセフは、ウクライナの社会保護省(MoSP)とデジタル変革省(DIIA)とともに、受給者を確認するための世帯データ導入を支援しています。また、問い合わせ窓口として、MoSPコールセンターと既存の子どもホットラインのインフラを活用し、コールセンターのオペレーターは、プログラムの質問に答えるための研修を受け、その後、苦情やフィードバック管理のためのHOPEモジュールの使用に関する研修を受けます。

現金給付プログラムの目的は、ユニセフとパートナーによる子どもの保護、教育、保健、水と衛生分野の支援に加えて、家族が必要とする当面のニーズを満たすことにあります。プログラムの第一段階では、3人以上の子どもがいる世帯、および、2人以上の子どもがいる世帯で子どもに障がいのある世帯を優先的に支援します。

ウクライナ周辺国で、ユニセフは、各国の社会保護省と協力して、状況の評価やシステムの強化を支援しており、必要に応じてウクライナ難民の経済的ニーズへの対応も行っています。例えばモルドバでは、ユニセフはUNHCRとの連携の下、困難な状況にある5万世帯に対して、一人当たり120ドルの一回限りの緊急現金給付(ただし、例外的に複数回も可能)支援の計画を立てました。この支援は、子どもや妊産婦の女性を含む、さまざまな難民の世帯に届く予定です。ユニセフの支援拠点である「ブルードット」や「子どもにやさしい空間」などが、受給者の登録と、現金を受け取るためのカードを発行する場所として指定されています。



# 世界スカウト機構と連携した 若者のボランティア支援

3月29日、ユニセフは人道支援活動において、若者のボランティア参画を推進するため、世界スカウト機構(WOSM)欧州事務局との地域パートナーシップを発足しました。

このパートナーシップでは、8,000人のWOSMボランティアがウクライナ、ポーランド、ハンガリー、ルーマニア、チェコ、スロバキア、ラトビア、モルドバ、リトアニアの9カ国で人道支援に携わるために動員される予定です。これにより、特に脆弱な立場におかれた人々や亡命希望者、戦争によって避難した50万人の10～25歳の若者と、その家族を含む200万人以上の被災者の支援に取り組めます。

ボランティアの若者たちは、各国の特定のニーズに基づき、右記に掲載した活動を通じて、日常生活のニーズに応え、若者のエンゲージメント、コミュニケーションを支援し、人々の生活の安定を手助けします。



## 第1段階

### 情報提供:

女性や子どもが入国地点に到着し、さらなる目的地に向かった移動、またはその国に定住する際に、包括的な情報を提供し、支援拠点であるブルドットへの照会やその他のサービスにつなげ、物資提供などの支援を受けられるようにします。

### ユーレポート・ヨーロッパとチャットボットの推進:

難民の若者たちに、オンラインプラットフォームであるユーレポート・ヨーロッパの活用を推進します。ユーレポート・ヨーロッパでは、安全や命を守るための様々な情報(法的支援、メンタルヘルス面のサポート、心理社会的サポート、教育支援など)を提供するとともに、ウクライナ難民の若者同士や、ホストコミュニティの住民とつなげることで、地域社会に溶け込めることを目指しています。


## 第2・第3段階

思春期の難民の子どもたちが、学校や近隣、同世代のグループなどの新たな環境に順応できるよう、スカウトがピアサポーターとして難民の子どもたちの支えとなります。思春期の子どもたちは特に、メンタルヘルスの問題やストレスへの対処に戸惑い悩む傾向があります。

精神面の健康を促進するためのガイダンス、ツール、活動、支援物資をパッケージ化した「思春期の若者用キット」を利用し、人道的危機の影響を受けている青年(10～18歳)をサポートします。

ユニセフは、危機発生から休むことなく難民支援にあたるボランティアの精神的な負担に対処するため、心理的応急処置/メンタルヘルス・トレーニングを提供しています。また国連の機関間常任委員会では、各国から2～3名のボランティアを対象にして、心理社会的支援、心理的応急処置、若者の人道支援ボランティアに関する研修を行っています。

さらに、ユニセフは、スカウトに対して、SNSコンテンツの制作と利用に関するガイダンスを提供しています。スカウトは、連帯、インクルージョン、非暴力といった価値観を共有するためのSNSのスキルを身につけます。ユニセフは、「思春期の若者用キット」の活用に関する研修を支援し、現場での使用状況を頻りにチェックしていきます。



## Blue Dots provide critical support for children and families

### 子どもの保護

ユニセフは、保護者のいない子どもや家族と離ればなれになった子ども、および児童養護施設やその他の代替的養育環境からの移動を余儀なくされた子どもを、適切に保護するために特定・登録する課題に関して、ウクライナ社会政策省が難民受入国とのパートナーシップ・協定を構築できるよう、専門的な能力強化とその他の必要な支援を提供しています。

ウクライナ政府は、政府間の重要な連携プロセスを通じて、多様な法律や子どもの保護制度を有する受入国の国々に避難しているウクライナの子どもの居場所を、より明確に確かめることができます。

ユニセフは、これらの協定のさらなる実施を支援するパートナーとして、ウクライナ政府から任命されています。ユニセフは今後数週間から数カ月の間に、この重要なプロセスの支援規模を拡大していきます。

さらに、ユニセフは、子どもの保護に関する国内の省庁間連携タスクフォースの一員として、ウクライナで保護者のいない子どもや家族と離ればなれになった子どもを短期間養育するための簡略化手続きの開発に貢献しました。この手続きは、児童養護施設やその他の代替的な養育環境において利用されます。2月24日以降、ユニセフと国家社会福祉局が共同運用するチャットボットを通じて、保護者がいなかったり家族と離ればなれになった子どもの里親になることを希望する申請が1万3000件以上寄せられています。すべての申請の中から里親に選ばれた家族は現在、社会福祉事業団の職員による研修を受けています。

2月24日以降、2,087人の女の子、男の子、女性が、ケースマネジメントからの紹介やカウンセリングサービスを通じて、ジェンダーに基づく暴力や子どもに対する暴力に対処するための支援を受けました。また、同日以降ルハンスクとドネツクで防空壕に避難している4,000人以上の人が、オンライン、対面相談、電話を通じて、心理社会的支援を受けました。

ユニセフは、モルドバ、ルーマニア、ベラルーシ、ポーランド、スロバキア、ハンガリー、チェコなど、EU受入国において、保護者のいない子どもや家族と離ればなれになった子どもに関する二国間合意の実施の促進に力を入れています。

周辺国においてユニセフは、UNHCRやNGO、市民社会組織のパートナーと協力して、難民の登録、スクリーニング、ケース管理、保護者のいない子どもの家族追跡を助けるための専門的支援、心理社会的支援、性的搾取や虐待からの子どもの保護など、子どもや家族にとって重要な支援と保護サービスを提供する支援拠点「ブルードット」を設置しています。

ユニセフはこれまでに、ルーマニア、モルドバ、ポーランドの7カ所で運営中のブルードットにおいて、総合的なサービスを提供しており、これまでに2万5,241人が支援を受けました。

現在、ハンガリー(4カ所)、モルドバ(4カ所)、ポーランド(10カ所)、ルーマニア(3カ所)、スロバキア(5カ所)、合わせて26カ所においてブルードットを設置しているところで、これらが稼働すれば、1日あたり5,200人の子どもを含む少なくとも1万3,000人に支援を提供できるようになる見込みです。

安全な暮らしを奪われ、教育の機会を失い、  
避難を余儀なくされている  
ウクライナの子どもたちと家族のために、  
ユニセフは、ウクライナ国内および周辺国で  
24時間体制で緊急支援を行なっています。

事態が長期化する中で、  
支援を必要とする子どもたちと家族は  
増え続けています。

困難な状況にある子どもたちと家族に  
命と健康を守る人道支援を届けるため、

ユニセフ「ウクライナ緊急募金」への  
ご協力をお願い申し上げます。